

令和7年10月29日

令和7年度 介護予防プロジェクト第1回目

福祉介護課健康長寿推進係
TEL 44-8691 (直通)

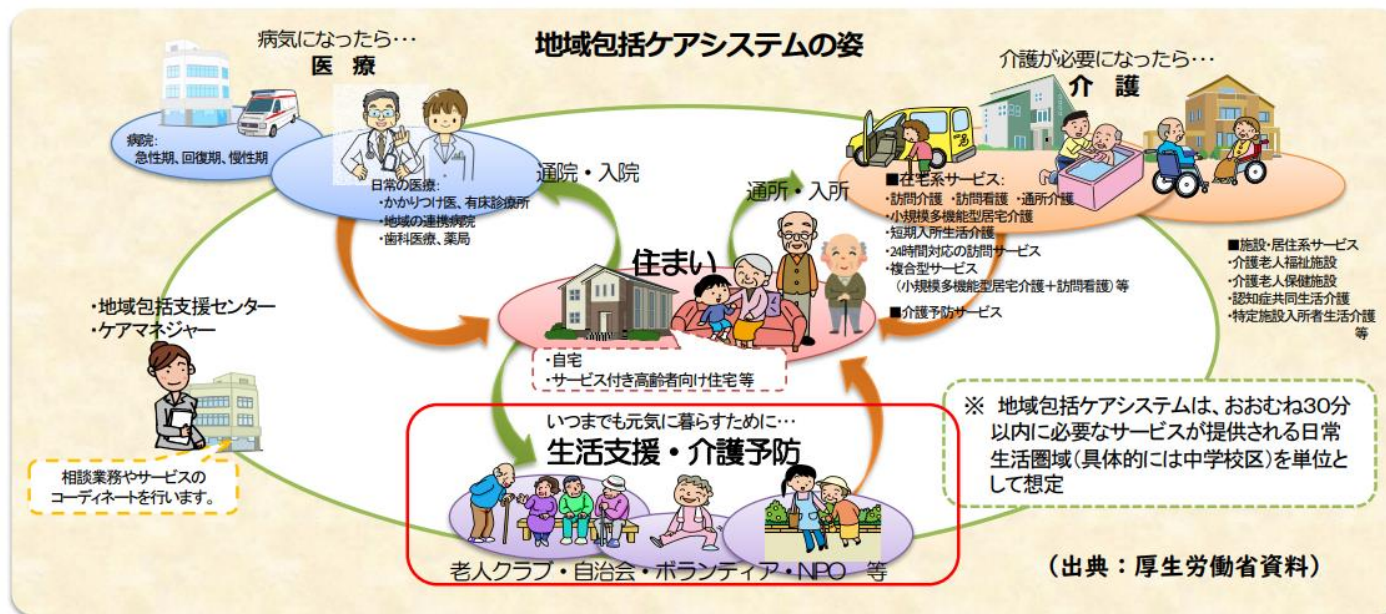
1 生活支援体制整備事業

生活支援体制整備事業とは

法律上の定義(介護保険法第115条の45第2項第5号)

(第2項)市町村は、介護予防・日常生活支援総合事業のほか、被保険者が要介護状態等となることを予防するとともに、要介護状態等となった場合においても、**可能な限り、地域において自立した日常生活を営むことができるよう支援する**ため、地域支援事業として、次に掲げる事業を行うものとする。

(第5号)被保険者の地域における自立した日常生活の支援及び要介護状態等となることの予防又は要介護状態等の軽減若しくは悪化の防止に係る体制の整備その他のこれらを促進する事業



生活支援・介護予防の担い手は「地域」です。既存資源の発掘や必要な新たな資源の創出等により「**地域**」の力を引き出す協議体や生活支援コーディネーターの働きが重要とされています。

2 生活支援体制整備事業

(3)実施内容

(イ)業務の内容

コーディネートを実施する範囲としては、第1層の市町村区域、第2層の日常生活圏域(中学校区域等)、サービス提供主体の活動圏域(第3層)があるが、本事業の対象となるのは、以下のa及びbとする。

第1層 市町村全域で、以下のaからdまでを中心に行う機能

第2層 日常生活圏域(中学校区域等)で第1層と連携を図りながら、以下のaからeまでを行う機能

a 高齢者の支援ニーズ・関心事や地域住民を含む多様な主体の活動の状況の情報収集及び可視化

b aを踏まえた、地域住民や多様な主体による生活支援・介護予防サービスの企画・立案、実施方法の検討に係る支援(活動の担い手又は支援者たり得る多様な主体との調整を含む。)

c 地域住民・多様な主体・市町村の役割(地域住民が主体的に行う内容を含む。)の整理、実施目的の共有のための支援

d 生活支援・介護予防サービスの担い手(ボランティア等を含む。)の養成、組織化、具体的な活動とのマッチング

e 支援ニーズと生活支援・介護予防サービスとのマッチング

(ウ)配置先及び必要となる人数

地域包括支援センターとの連携を前提とした上で、配置先や市町村ごとの配置人数等は限定せず、地域の実情に応じた多様な配置を可能とする。



第1層→福祉介護課健康長寿推進係(1名)

第2層→胎内市社会福祉協議会(1名)

ふるさと奥山の荘(3名)

福祉介護課健康長寿推進係(1名)

3 協議体 地域支援事業実施要綱抜粋

ウ 協議体

(ア)目的

生活支援コーディネーターが行うコーディネート業務を支援し、多様な主体間の**情報共有**及び**連携・協働**による体制整備を推進することを目的とする。

委員の皆さまと意見交換することで情報共有ができ、協議体で顔の見える関係ができることや、意見交換で互いの思いや考えを知ることで連携・協働につながっていくと考えています！

(イ)役割

- a 生活支援コーディネーターの組織的な補完
- b 地域ニーズ、既存の地域資源の把握、情報の可視化の推進(実態調査の実施や地域資源マップの作成等)
- c 企画、立案、方針策定を行う場(生活支援・介護予防サービスの担い手養成に係る企画等を含む。)
- d 地域づくりにおける意識の統一を図る場
- e 情報交換の場、働きかけの場等

4 生活支援コーディネーターの視点①

【事例】

Aさん。90歳代男性。日常生活は自立。退職後は自治会やボランティア活動に参加していた。

以前は自分が役立つ人間と思えたり、他者との交流を楽しむことができていたが今はできていないため充実感を感じられていない。

また周囲に悩みを相談できる友達がない、語る場所がない、自分一人では友達は作れないといった悩みを抱えている。

本人の希望は「**外に楽しみを持って出かけた**い」



生活支援コーディネーターはこのようなところを見ています！

●基本情報

- ①以前はどんな生活だったのですか？（対象者を支えていた社会資源を共有する）
- ②今はどんな生活ですか？（以前の生活から失ったものを把握する）

●本人の暮らし、本人の思い（体力が落ちてきている、閉じこもりがち、運動不足等）

●周囲との関係性（近所との付き合いの有無→現在は？昔は？）

●趣味、好きなこと、やりたいこと、人柄（目指す暮らしを共有する）

5 生活支援コーディネーターの視点②

●基本情報

①以前はどんな生活だったのですか？

→自治会やボランティアに参加し他者交流を好んでいた

②今はどんな生活ですか？（以前の生活から失ったものを把握する）

→悩みを相談できる友達がいない、語る場所がない、自分一人では友達は作れない

●本人の暮らし、本人の思い

→外に楽しみを持って出かけた

●周囲との関係性（近所との付き合いの有無→現在は？昔は？）

→昔はつきあいがあったが、今は友人等が亡くなってしまい付き合いはほとんどない

●趣味、好きなこと、やりたいこと、人柄（目指す暮らしを共有する）

→麻雀がしたい、人と話がしたい



6 生活支援コーディネーターの視点③

生活支援コーディネーターはこのような動きをしました！

- ①町内のボランティア団体の代表に相談
- ②本人が参加している会で様子確認
- ③近隣地域の居場所のメンバーに参加可能か確認
あわせて本人へ声かけを依頼

生活支援コーディネーターが課題に感じたこと(Aさん個人)

様々な人と交流しているが「寂しい」と繰り返している
Aさん本人が望む交流と、活動のマッチングが出来ていないのではないか

生活支援コーディネーターが課題に感じたこと(地域)

地域資源はメンバーの高齢化などの理由で姿が変わることもある
都度、見直しが必要なこともある

7 グループワーク

①高齢者の居場所をあげてみましょう

例としてあがっている健伸館やサロン、通いの場の他にも高齢者の居場所と考えられるものをあげてみましょう
地域ごとに行っているもの、地域の枠を超えて行っているものなど... 様々な角度から考えてみましょう

②次にそれぞれの居場所の活動内容について記入してください

箇条書きやイメージでもかまいません
思いつくままに記入してください

③それぞれの居場所が「地域住民が望む姿に合わせて変化できているか考えてください

できている→○　できていない→△で記入してください

④○や△の要因について考えてください

思いつくままに自由に記載してください

① ↓	② ↓	③ ↓	④ ↓
居場所	活動内容 ※イメージでも可	地域住民が望む姿 に合わせて変化できているか ○:できている △:できていない	○、△の要因
健伸館	通いの場、カラオケ等高齢者向けのプログラムの実施	○	第2層生活支援コーディネーターが利用者のニーズを把握しながらプログラムを企画
サロン			
通いの場			

話し合うことから様々なアイデアが生まれます!

はじめて介護予防プロジェクトの委員になった方も、ベテランの方も…

誰もが不安なく話し合える雰囲気がこの介護予防プロジェクトの良いところだと感じています

委員の皆様のうち何名か入れ替わりがありました、この良い雰囲気を継続して活発な意見交換ができたと思います

よろしく願いいたします

